

映画を撮ります

あなたのために

第66回
ベルリン国際映画祭
Panorama Dokumente 部門出品
第31回
サンダンス映画祭
ワールドドキュメンタリー・コンペティション部門出品

The Lovers and the Despot

1978年—
韓国の女優と、映画監督が
北朝鮮によって拉致された。
一体なんのために—？
二人が辿った数奇な運命が、
今、明かされる。

将軍様



主演 申相玉
「拉致された映画監督」
主演 金正日
「北朝鮮最高指導者」
主演 崔銀姫
「拉致された女優」

監督：ロス・アダム、ロバート・カンナン 出演：チェウニ、シン・サンオク、金正日、元CIA職員ほか
配給：彩プロ 宣伝：沼尾真未 2016年/イギリス/韓国語・日本語・英語/カラー/ビスタ/5.1ch/97分 原題：The Lovers and the Despot

©2016 HelloKorea Film Ltd/the British Film Institute
Magnolia Pictures Off Creative England BBC HELLFLOWER THE GIGGLY production THE Documentary Company Influence Film ZDF/Arte SVT - Sundance Institute Documentary Film Program
NTR Pompernickel Films - Sabmarine Media programme of the European Union the Tribeca Documentary Fund the Seoul Film Commission "THE LOVERS AND THE DESPOT"
Sherry Crown Maggie Monteith Lizzie Francke Richard Holmes Nick Fraser Kate Townsend Victoria Stevenson Cristina Linsinger Sandra Whiphorn Christoph Jörg Fenke Wolfgang Bruno Felix
Jim Hession Nathan Halpern Robert Cannon Ross Adams Jim Hession Naracha Black Ojima Robert Cannon and Ross Adams

www.shougunciga.ayapro.ne.jp

《映画》と《金正日》、驚愕の拉致事件の真実



独裁者に拉致された悲運の韓国女優の
平壤での実体験と脱出劇は

拉致問題を抱える日本人には
必見である!!

—— 辺真一

(コリアレポート)編集長

金正日が「キネマの王国」を夢見たのはなぜか?
その謎を解きつつ、

南北分断のリアルな姿に
息を飲む。

—— 鈴木琢磨

(毎日新聞編集委員)

奇妙な映画王国に連れ去られた
映画監督が体験したまさに

映画のような現実を今、
新証言でたどる。

—— 門間貴志

(明治学院大学 / 映画史)

北朝鮮に拉致された 女優と映画監督。 彼らはどのようにして生還できたのか

当時の関係者らや家族、そして拉致被害者自身の証言を交え、拉致の真実とその過程を明らかにする

1978年、韓国の国民的女優、崔銀姫(チェウニ)が旅行先の香港から忽然と姿を消した。不審に思った崔銀姫の夫で映画監督の申相玉(シンサンオク)は彼女の行方を追うが、彼自身もまた行方が分からなくなってしまふ。実は二人は北朝鮮に拉致されていた。5年余りの間、お互いの生存を知ることもなく、彼らは別々の場所で政府関係者や軍人たちの監視の下、自由のない暮らしを送っていた。申相玉は数回に渡り、脱出を図るも失敗し、強制収容所に入れられていたという。ある日、金正日の仲介によって再会を果たす崔銀姫と申相玉。そして、彼らは金正日から“ある重大な指示”を命じられるのだった——。

拉致被害者である崔銀姫本人の証言や、その子供たち、当時事件を調査した香港の捜査官や米國務省関係者、元CIA職員らのインタビューを通じて、拉致から86年に亡命するまでの8年間に及ぶ北朝鮮での生活が明らかにされていく。また、劇中では崔銀姫らが密かに録音していた金正日の肉声テープが初公開され、拉致に言及するその内容は、世界中で大きな反響を呼んでいる。亡命から30年経った今だからこそ、明かされる数々の真実は、闇に隠された北朝鮮という近くて遠い国の片鱗を知る術となる。



孤独な独裁者が愛したもの、それは映画だった——

映画を愛した独裁者と映画に取り憑かれた映画監督、二人の映画狂に運命を翻弄された一人の女優

映画マニアとして知られている金正日は、平壤の中心部に「国家映画文庫庫」を建設し、およそ2万本のフィルムやビデオテープを所有していたといわれている。日本や欧米の映画などを数多く鑑賞し、「ゴジラ」や「男はつらいよ」シリーズのファンだったとも伝えられている。一方で、金正日は映画を芸術や娯楽ではなく、政治的な道具として、父・金日成と金一家の偶像化や政策のために利用してきた。国民から「將軍様」と崇められてきたが、金自身はそれが虚構であると理解し、孤独を感じていたのかもしれない。そんな金正日にとって申相玉は、唯一対等に大好きな映画について語り合うことのできる貴重な存在だったに違いない。子供たちと引き離され、悲しみに暮れる崔銀姫とは対照的に、申監督は金正日から与えられる潤沢な資金と自由に撮影できる環境の下、映画制作に熱中してゆくのだ——。

申監督と崔銀姫が北朝鮮で映画制作に挑んだ期間は3年程度だが、およそ17本もの作品を制作。日本人スタッフも多数参加した北朝鮮初の怪獣映画「ブルガサリ 伝説の大怪獣」(85)は日本でも公開され、カルト的な人気を誇っている。他にも崔銀姫が監督した「帰らざる密使」(84)はチェコ国際映画祭特別監督賞を受賞するなど、二人が制作した作品は海外の映画祭に出品され、高い評価を受けている。

將軍様、あなたのために映画を撮ります

The Lovers and the Despot

監督:ロビン・アダム、ロバート・カンシナン 出演:崔銀姫、申相玉、金正日ほか 配給:影プロ 宣伝:沼尾真未
2016年、イギリス・韓国語・日本語・英語、カラー、ビスタ、3 [1] (1) 97分 原題:The Lovers and the Despot
©2016 Hollywood Film, Ltd. & Break Film, Inc. www.shougunica.ayapro.net.jp

9.24(土)より驚愕のロードショー

オリジナルポストカード付特別鑑賞券1,400円(税込)発売中!

◆当日一般1,800円(税込)の処/特典は数量限定、無くなり次第終了



渋谷・文化村前交差点左折

ユーロスペース

EUROSPACE

03(3461)0211 eurospace.co.jp

